

施工時に行われた地下水の連続揚水試験。



東京医科歯科大学の過去から現在までの
トピックス、エピソードをピックアップして紹介します。

銘水「御茶ノ水」を活用する 地下水膜ろ過システム

2011年(平成23年)給水開始



地下150mから汲み上げた井戸水を飲料水にする逆浸透膜(RO膜)システム。給水システムの電源は、災害時でも自家発電設備により供給が可能。

湯島キャンパスには、昭和43年に設置された井戸があった。東京医科歯科大学はこの井戸の補修工事を行い、井戸水を利用した地下水膜ろ過システムの設備を導入した。この水は大学内で主に飲用水として使用されているが、災害時には地域住民の給水として利用することも可能だ。給水システムによる年間使用量は約19万m³。それまで賄っていた都水の約70%を井水で供給できることになり、年間5000万円の経費削減にも繋がった。将軍に献上されていた「御茶ノ水」が湧いていた正確な場所は不明だが、明和9年刊の再校江戸砂子の地図には現在の湯島キャンパスの辺りに「御茶ノ水」の文字がある。銘水は今、身近に人々の喉を潤している。



井戸はこの場所に設置されているが現在は蓋がされている。

再校江戸砂子より「御茶ノ水」の記載がある現在の湯島キャンパス付近。